



歓迎公演として、阿寒アイヌ工芸協同組合による国の重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」が上演された。

愛林の町・津別から未来へのヒントを発信 第4回「全国木のまちサミット」2018inつべつ に全国の林業関係者が集結



TBSテレビ番組「サンデーモーニング」でコメンテーターを務める、涌井史郎(雅之)氏による記念講演も行われた。

【課題別事例発表】
北海道第一次産業
ハッカソン2018
実行委員長
北原 健太郎 氏

第一次産業ハッカソンとは、第一次産業とITとを結びつける取り組み。成果として、林業労働災害シミュレーターVR体験や、立木カウンターなどが開発された。今年、津別町

でも林業ICTの可能性を考えるワークショップを行った。若者の林業就業へのモチベーションを上げるにはどうしたらよいか、という課題を検討・発表した。

株式会社パスコ
菊池 謙 氏

津別町は昨年、森林管理の精度向上・情報共有のため、航空機レーザー計測による計測解析や、森林ICT活用基盤の導入を行った。特に森林ICT活用基盤の導入は、町と森林組合などの団体で情報共有ができ、森林の収益性のアップが期待できる。

津別単協同組合
藤井 仁 氏

バイオマスにより道産木の付加価値を高めている。「2L」を掲げた事業展開している。Lとは、ローカルとローテクの頭文字を指す。ローカルは100%の道産材を津別町内で製造し、地元雇用を促進していることを、対してローテクは百年前から生産されている製品を常に深く追求していくことを、それぞれ表している。

単板協同組合の「バイオマスグリーンサイクル」は、化石燃料を使わず熱・電気供給を行って工場を操業しており、「森づくり基金」を基にした植林・



津別町から事例発表に登壇した藤井氏

10月11日、12日の二日間、第4回「全国木のまちサミット」2018inつべつが開催されました。本サミットは、木材利用に取り組み全国の自治体等が一堂に会し、地域材利用促進のための課題とその解明策を一緒に考え、全国で木材利用の促進と国産材自給率の向上加速化の足掛かりを目的に、開催されているものです。4回目となる今年は、津別町を会場に開催され、全国の自治体や関係機関、津別町民等約300人が参加しました。今回は、サミットの様子をお伝えします。

一日目の11日には、中央公民館を会場に、講演や事例発表などが行われました。講演等の内容は以下のお通りです。



開催地歓迎挨拶をする
実行委員長の佐藤町長

【基調講演】
林野庁木材利用課長補佐
宮脇 慈 氏

新たな森林管理システム「森林経営管理制度」を紹介。民有林の経営管理を、所在の地方自治体に委託することで、森林を経済的に活用する。鉄筋コンクリート建築が主流であるが、いかに木材を使ってもらうかという課題について、「公共建築物木材利用促進法」を制定し、国が率先して公共建築物への木材利用に努力している。

財源確保のため、平成31年度から「森林環境税」「森林環境譲与税」（いずれも仮称）を創設する。平成36年度より住民税に上乗せし、一定基準で全国の市町村

育林による循環エネルギーである。皆さんとともに栄える企業としてありたいと願っている。

東京都港区役所
目時 有也 氏

東京都あきる野市の森林を借り、「みなど区民の森」を整備している。全国74の自治体と、「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結し、協定自治体から産出された木材の使用を区内の建築主に促している。その成果として、業者が国産材に触れる機会となったことが挙げられるが、用途が下地材に偏っているという課題が残されている。

総合地球環境学研究所
田村 典江 氏

（事例発表ファシリテーター）
森林環境税などの充実により、森のある町が「新しい田舎の未来」を目指し、その取り組みが広がっていけばよいと感じた。

【われら木のまち宣言】

最後に、「われら木のまち」宣言により、地域での木材利用の促進、都市部への国産材利用の働きかけ、住民への木材利用の効用の説明・子どもたちへの木育や森林環境教育の推進、森林管理に関わる人材の育成、国産材利用推進のた

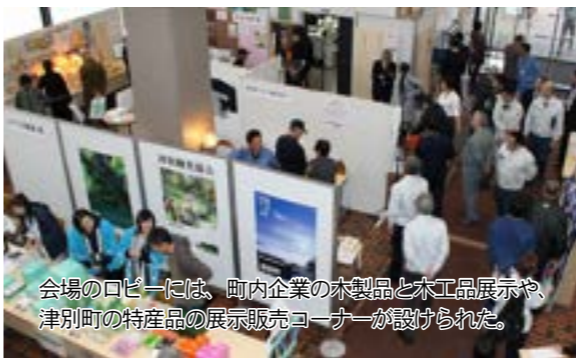


2日目の町内視察。木材を多用した認定こども園の内装に見入る参加者。

【記念講演】
東京都市大学特別教授
涌井 史郎(雅之) 氏

人類は進化の過程において、緑というものをしっかりと捉えるという能力を身につけた。しかし現在、世界の森林率が大きくマイナスになっており、これが近年の気候変動の原因となっている。

地球の気温の上昇は、プラス1度といえど大変なこと。現在、生物の種は年間3〜4万種が絶滅している。他の生物なくして人類の生存はない。地球の二酸化炭素吸収率に対して、人類の排出量が上



会場のロビーには、町内企業の木製品と木工品展示や、津別町の特産品の展示販売コーナーが設けられた。

めの木材供給体制整備の、5つの取り組みを進めることを誓い合いました。



閉会挨拶をする
加賀谷副実行委員長

【現地視察】
二日目の12日には町内視察が行われ、丸玉木材(株)、TSK OOL、西町団地認定こども園を見学。町内で木材加工販売を行う事業所や、バイオマス燃料を活用した施設、木材をふんだんに使った施設を、参加者は熱心に見入っていました。

関係官庁や大学教授による講演や先達の事例発表により、林業の未来のビジョンをこの津別町を舞台に全国へ発信できたこと、また私たち町民もこれらの情報にじかに触れることで、「愛林のまち」として歩むわが町の新たな指標を得ることができた、有意義なサミットとなりました。